

伯爵令嬢マリツァ 虹組キャストプロフィール

マリツァ 松原 有奈



国立音楽大学声楽科卒業、同大学院オペラコース首席修了。イタリア・ミラノにて研鑽を積む。第64回日本音楽コンクール声楽部門第2位入賞。

二期会50周年記念公演、「フィガロの結婚」においてスザンヌ役を多数の応募者の中から射止め、清冽な歌唱とチャーミングな舞台姿で大喝采を浴びた。その後、二期会オペラ、R.シュトラウス作曲「エジプトのヘレナ」(日本初演)にアイトラ役で出演し、存在の大きさを確実なものとした。、「ゴッ・ファン・トゥッテ」デズ・エー役では、本公演最大の立役者と評される。同公演は文化庁芸術祭大賞を受賞した。新国立

劇場「フィガロの結婚」スザンヌ役に抜擢され、その安定した歌唱と的確な演技により各誌で高い評価を受ける。NHK-FM名曲リサイタルに出演のほか、モーツァルト・フォーレ・ヴェルディの「三大クワイエム」をはじめ、宗教曲、合唱曲のリストとしての出演も多く、ボストン・シンフォニー・ホールにて第九のリストを務めるなど、正統的でムラの無い歌唱が常に高い評価を得ている。CD「松原有奈モーツァルト・オペラ・アリア集 with Piano Quintet」をリリース。

二期会会員、二期会オペラ研修所及び国立音楽大学講師。

タシロ 池本和憲



武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。光信捷彦、藤田昌克、大谷冽子、G.ライモンディ、R.エリ、C.ヴァンニーニ諸氏に師事。イタリアにて修学、日伊声楽コンクール入選後、藤原歌劇団、新国立劇場にてアンダースタディとして研鑽を積み、「蝶々夫人」のピンカートン役で新国立劇場にデビュー。同劇場公演にて世界的歌手と共演。岡村喬生演出「蝶々さん」のピンカートン役、宮本亜門演出「キャンディード」の総督役で出演する等、幅広く活動を展開。ヴェルディ、プッチーニのオペラを中心にリリコ、リリコスピントの役柄で活躍。オペレッタ、ミュージカル、リサイタル、またオーケストラとの共演も多く、第九、宗教曲ソリスト

トとして出演。近年はワーグナー「神々の黄昏」ジークフリート役にて高い評価を得、昨年は「トリスタンとイゾルデ」トリスタン役を、ワーグナーアカデミー東京主催公演（佐々木修指揮）、TIAA 主催公演（C.ハンマー指揮）、東京アートオペラ「ヴェルトビューネ フェストシュピーレ」（総監督高辻知義 東京大学名誉教授、指揮伊東乾 東京大学准教授）にて歌い、ヘルデンテノールとして地位を確立した。CD

「マザーテレサの祈り」をリリース。藤原歌劇団団員。

リーザ 伊藤邦恵



東京音楽大学声楽演奏家コース卒業、同大学院声楽専攻オペラ研究領域修了。声楽を米屋恵子、太刀川悦代、篠崎義昭、釜洞祐子の各氏に師事。第11回榛名梅の里音楽祭&「日本の歌」スプリングセミナーにて新人賞を受賞。第60回全日本学生音楽コンクール東京大会入選。第5回東京音楽大学コンクール入選。財団法人千葉県文化振興財団20周年記念事業東総文化会館オペラ「魔笛」のパミーナ役でデビュー。「こうもり」のアデーレや「魔笛」のパパゲーナ、「サンドリヨン」のノエミ、「メリーウィドウ」の踊り子ジュジュ役等オペラ出演のほか、TOKY

OFM少年合唱団や六本木男声合唱団等、各団体とソリストとして共演。また、クラシックに限らず童謡や抒情歌、ミュージカルやポピュラーソング等も取り入れた子どもから大人まで楽しめるコンサートを目指し「びーすな音楽会」を企画、出演している。第53期二期会オペラ研修所マスタークラス修了。東京室内歌劇場会員。

現在、TOKYOFM少年合唱団や音楽教室などで歌唱指導にあたるほか、介護施設にて音楽療法も行っている。

ジュパン 吉田 敦



島根県浜田市出身。東京音大研究科オペラコース修了。卒業後、イタリア、ベルカント発声を学び、その、存在感ある歌唱と、演技は、常に観客を魅了している。活動の場は国内外に及び、数多くのオペラ、オペレッタ、ミュージカル等に主演。

新国立劇場、サントリーホールなど、クラシックの殿堂で歌う傍ら、商業ミュージカルにも進出。そのレパートリーは、クラシックにとどまらず、ジャンル超えて非常に多い。

07年11月に下咽頭癌と、リンパへの転移が見つかり、慶應に二週間入院。

二度の手術は、12時間を超えるも、退院二週間後、ソロコンサートから復帰。

08年夏、スペインのサラゴサ万博にて、ミュージカルに主要キャストとして七日間出演。初日は日本皇太子殿下も観に来られ、絶賛された。また、ジャパン週間クロージングイベントでは、『ふるさと』を熱唱。世界中から集まった人々から大きな拍手を受ける。

さらには、10年5月にも、上海万博にて、やはりミュージカル主要キャストとして参加。その舞台はNHKニュースで報じられた。

第九ソリスト、宗教曲のソリストとしても定評があり、

最近では、新潟三条、魚沼において、東北被災地から避難している方々の前で、亡くなった方々へ、哀悼の意を込め、フォーレのレクイエム、ソロを歌った。

ヴォイストレーナーとしても実績、信頼があり、ジャンルを超えて各方面で活躍している生徒は多い。

脚本家として、オペラティックミュージカル「お鶴島」

オペレッタ「大泥棒ホッツェンプロッツふたたびあらわる」他。演出家、プロデューサーとしても実績がある。

現在、東京音楽大学で、後進の指導をしている。

二期会正会員。うた芝居『吉田組』主宰。『和光女声コーラス』指揮者。

合唱団『童』指揮者。合唱団『ハナミズキ』指揮者。発声グループ『ベアトリーチェ』指導者。三条オペラ塾、塾頭。新宿アクティビズムスタジオ、講師。

ポップレスク 小栗純一



東京芸大声楽科卒。劇団四季研究生（8期）を経て、現在二期会会員。

横浜シティオペラ会員、青の会会員。二期会公演『メリーウィドー』のダニロ役でデビュー。以後『こうもり』のファルケ、アイゼンシュタイン、フランク、『カルメン』のエスカミーリオ、『ドン・ジョバンニ』のタイトルロール、『椿姫』のジェルモン、『フィガロの結婚』の伯爵、『魔笛』のパパゲーノ、民音オペラ『スペードの女

王』のエレッキー、新国立オペラ『天主物語』の図書之助役他、多くのオペラ・オペレッタ主役を務める一方、ミュージカルでも『サウンド・オブ・ミュージカル』のトラップ大佐、『マイ・フェア・レディ』のヒギンス、『ファンタスティック』のエル・ガヨ役を務める。また『第九』や宗教曲でのソリストとして、一流オーケストラとの共演も多い。また、音楽之友ホールでの“日本歌曲コンサートシリーズ”では、その歌唱力が高く評価されている。

マーニャ 森裕美子



国立音楽大学卒業。同大学院フランス歌曲科修了。約 3 年間渡伊。イタリアにて野外オペレッタ、故 M.Pradelli 邸コンサート等多数のコンサートに出演。

ボローニャ *circolo ufficiali* にて「リゴレット」ジルダ役で G・Boyagian と共演。プッチーニフェスティバルにて「蝶々夫人」芸者役で出演。

日本にて二期会オペラ、文化庁本物のオペラ体験事業、松本市民オペラ、絨毯座、ミラマーレ・オペラ、杉並区民オペラ、第九ソリスト、新宿コマ劇場祭典等多数のコンサートに出演する他東劇にて映画「プッチーニに挑む」、FM 小金井ラジオパーソナリティ、Biglobe 動画「民のチカラ」に出演。

第 10 回日仏声楽コンクール入選。

第 4 回ベルカント・ソプラノ・コンクール第 2 位。

第 12 回アルカモ国際オペラコンクール日本代表。

阿部富美子、L・Vannini 各女史に師事。

ヨーロッパアーティスト協力アーティスト。

YAMAHA 福生センター声楽、コーラス講師。

アルテリーベ新橋にレギュラー出演中。二期会会員。

クッデンシュタイン侯爵夫人 ひらやすかつこ



武蔵野音楽大学声楽科卒業。モーツァルテウム音楽院サマーアカデミーディプロマ。91年文化庁芸術家在外研修員、92年99年国際交流基金より芸術家派遣員として伊、独、仏、澳、露に国費留学を得て声楽、プロデュースを研鑽。NHK・FMリサイタル初め教育TV、マスコミ、舞台出演等各地でソリストとして幅広い活動を展開している。オペラはカルメン、カルメンシータ、道化師、魔笛、黒蜥蜴、卒塔婆小町、龍の雨（企画、制作）他数多くの創作オペラでも主演をこなす。第九、メサイア、オラトリオ、レクイエム他ソリストをNHK交響楽団、東京フィルハーモニー、新星日本交響楽団、東京ニューシティ管弦楽団、ザルツブルク室内管弦楽団有志、ミュンヘンサロンオーケストラ他国内外の著名オーケストラと日本縦断での共演も好評を博す。又特に日本歌曲はサントリーホール、新国立劇場、紀尾井ホール、よみうり大手町ホールでの造詣は深くNHKFM新春特別放送での歌唱、邦人作曲作詞家との共演が多い。TV大河ドラマや演劇の挿入歌、プロスポーツ開幕戦、始球式での国歌斉唱などもTV放映された。海外ではカーネギーホールはじめ、ドイツ、パリ、ミラノ、フィレンツェ、ロサンゼルス、ニューヨーク、シカゴ、スコットランド、ザルツブルク、ニジニノブゴロド、北京、韓国でも公演。ミュージカル組織所属の経験を活かし文化庁助成推薦リサイタルやディナーショー、コンサートも多数出演。大学及び各学校声楽教室、企業での講演も好評を得ている。CD等8枚リリース。音楽コンクール審査員やコンサートプロデューサーとして後進の育成にも務める。第1回奏楽堂日本歌曲コンクール入賞、95年千葉県知事賞、02年千葉県文化功労賞、現在文化庁芸術家在外研修員の会理事、千葉県声楽アカデミー歌曲オペラコース音楽監督、二期会会員。

チェッコ 大日琳太郎



仙台一高卒。東北大在学中より作曲家を志望し、和声と対位法を佐藤真に師事。大学を卒業して上京、1988年第12回神奈川芸術祭作曲コンクールに入選するが、能の影響から演劇に転向。以来、自作の他、ダン・ケニー氏と共に英語狂言の普及、それから近松門左衛門、三島由紀夫、真山青果など、重厚で華麗な文体をもつ戯曲と現代音楽との融合を追究している。震災後「日本の物語制作委員会」を発起し、音楽劇を通してふるさとの歴史と美風を次代に伝える活動を開始した。代表作としては「星空のコンチェルティーノお琴」「天

の赦すところ」「花山寺」がある。宮城県芸術協会会員。